

平和学習会 in ナガサキ

戦争のない世界を目指して

～今のウクライナで起こっていること、80年前の長崎で起こったこと～



ウクライナのジャーナリストが、平和公園（長崎市）で組合員と一緒に折鶴を奉納しました。

カタログGREEN25号で呼びかけた  
2025年ウクライナ支援募金  
へのご協力ありがとうございました  
合計 5,884,900円

寄せられた支援金は、「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」と「食と暮らしの安全基金」を通じてウクライナの支援活動に役立てられます。

子どもたちの未来のために No.207  
原発は環境にやさしいと言えるのか

ここ数年、国のエネルギー政策において、原発は発電時にCO<sub>2</sub>を出さないという点が強調されています。果たしてそのだけで環境にやさしいと言えるのでしょうか。燃料のウランの採掘現場では、放射能による環境汚染が問題となっています。原子力発電所は、温排水により海水温を上昇させている問題もあります。何といても高レベルの放射性廃棄物（核のゴミ）を生み続けています。これだけでも環境への大きな負荷がかかっているのは明らかです。現在の核のゴミ処理問題、さらにひどい事故が起これば、広範囲、長期間にわたり環境も生命も脅かされることとなります。

いくら聞こえの良い言葉を並べたところで、未来の環境を守るための原発推進には無理があります。国は、国民や環境のためというスタンスで原発の再稼働や運転期間の延長、増設の検討を進めています。エネルギー問題が注目されている今こそ、環境に配慮したグリーンコブでんきを選択し広めていきましょう。

グリーンコブ共同体組織委員会

原発のない未来をつくろう (一社)グリーンコブでんき  
ひらがれ! 私たちの発電所

2025年8月の売電量	若宮物流センター太陽光発電所 5,584kWh 103,670kWh (14世帯相当)
神在太陽光発電所 103,670kWh (14世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所 5,043kWh 164,154kWh (368世帯相当)
平池水上太陽光発電所 164,154kWh (368世帯相当)	グリーンコブやまぐち生協 186,481kWh (453世帯相当)
深年太陽光発電所 186,481kWh (453世帯相当)	西部地蔵本部太陽光発電所 5,612kWh (110世帯相当)
※オンサイトPPA太陽光発電所 75,909kWh (85世帯相当)	グリーン未来ソーラー 45,108kWh (110世帯相当)
※グリーンコブ関連の事業所屋上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を bypass して直接その施設で利用しています。	

組合員の出資で原発フリーの電気をつくります  
「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい!」  
という願いを、私たちの力で実現させましょう。  
グリーンコブ・グリーン電力出資金  
10,589人 1,073,078,000円 (2025年9月25日現在)

会場:長崎原爆被災者協議会 地下講堂  
参加者:約100人(報道含む)

原爆投下によって人間に何が起こったか

田中重光さん 日本原爆被害者団体協議会(日本被団協) 代表委員  
長崎原爆被災者協議会(長崎被災協) 会長

1985年、渡英して自身の体験を語ったことを機に被爆者運動に携わる。  
1999年には長崎被災協で相談員や語り部として活動を始め、2017年、会長に就任。  
翌年、日本被団協の代表委員に選出された。



一瞬で日常を奪われたあの日の記憶

原爆が投下された1945年8月9日、4歳だった私は、自宅の庭で遊んでいました。飛行機の音がしたかと思ったら、突然ピカッと見たこともない閃光が走り、数十秒後に物凄い爆発音と共に爆風が吹き、家中のガラスが割れ、ふすまも障子も飛んでいきました。急いで逃げ込んだ裏山から、みるみるうちに立ち昇るきのこ雲を見たことが覚えています。

その日の夕方には病院は負傷者で一杯になり、空き家やお寺などにも収容されましたが、それでも収容しきれない状況でした。医薬品も不足し、沸騰させた海水が消毒液、なたね油がやけどの薬、持ち寄った古いシーツや浴衣が包帯代わりでした。看護の手も足りず、婦人

会などに召集がかかり、母も手伝いに行きました。主な仕事は、負傷者の傷口などについてウジ虫取りとガラス片を抜くことだったと言います。夜は、ウジ虫が身体を侵食する音や負傷者のうめき声が聞こえるなど、まさに地獄のような光景で、毎日何十人もの遺体が裏山に埋葬されたそうです。

身体、心、暮らしを叩きのめした原子爆弾

原爆は広島と長崎に投下され、60万人以上の人々が被爆し、同年末までに長崎で約7万4千人、広島で約14万人の命を奪いました。さらに、被爆者は偏見と差別に苦しみました。男性は職に就くことも難しく、女性は身体の傷のせいで結婚を諦めざるを得ませんでした。原爆は投下されたあの日からずっと、被爆者の身体も心も暮らしも、叩

平和な世界を訪れることを信じて

核兵器は、現在世界に1万2千発以上存在し、ロシアとアメリカがその9割以上を所有しています。終戦時アメリカのみだった保有国は、現在9カ国にまで広がりました。そしてこの80年の間、世界の様々な地域で戦争が起きています。

長崎被災協のメンバーは、昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞をきっかけに、改めて多くの人たちに「武力対武力では、平和な世界はつくりえない」ということを、被爆体験を語ることで訴えています。世界中を駆け回っています。

今日の聞き手は、明日の語り手です。戦争のことを知り、平和について話す機会が増えていくことを願っています。

田中重光さんからのメッセージ  
平和のために大人が子どもたちにできること

「戦争を知らない」ことは、子どもたちにとって一番いいことだと思いますが、この先、日本も平和が崩れる時が来るかもしれません。そのような日が来ないようにするために、大人が歴史から学んだ教訓を子どもたちに伝えていってほしいです。平和がいかに大事か、家族で過ごすことがいかに大事か、そして「仲良くする」「人にやさしくする」ことが平和の原点だということ、子どもたちに知ってほしいと思います。

戦争を始めるのは大人ですが、犠牲になるのはいつも子どもたちです。大人は、子どもを守るために力を尽くさなければなりません。そのためには、私たち大人が責任を持って平和教育をしていくことが大切です。そして、国に対しても必要な意見は発信していきましょう。



互いの平和への想いに共感し、手を取り合うジャーナリストと田中さん。

互いの話を聞いて、感想を伝え合いました。

田中重光さんから

現在のウクライナの街は、80年前の広島や長崎の風景とひとつも変わらないと思いました。やせ細った子どもたちが泣き叫んでいる姿を見ると、本当に許せない気持ちになります。一日でも早く停戦することを願います。ジャーナリストのみならずには、これからも身体を大切に、戦争の真実を伝えていっていただきたいです。

ウクライナのジャーナリストから

日本では終戦後、支え合って生きないといけない時に、被爆者への差別があったと聞き、とてもショックを受けました。田中さんご自身が大変苦しい経験をしたにもかかわらず、自分に起きた悲劇を隠さずに語り続けていることに、感銘を受けました。戦争のない世界を目指して諦めずに活動を続けていることが、ノーベル平和賞という形で実ったことは、本当に良かったと思います。

ウクライナで起こっていること

ウクライナ・ジャーナリスト連盟 会長 セルゲイ・トレンコさん(左)  
ラジオ・オンラインジャーナリスト オルガ・ヴァカーロさん(中央)  
「トルドヴァ・スラヴァ」新聞 編集長 スヴィトラナ・カルペンコさん(右)



首都キーウの防衛中に赤十字を救出するウクライナ兵士(2022年)

ロシアが始めた戦争は4年目に入りました。ウクライナでは多くの子どもたちが傷つけられ殺害されています。さらに、数万人の子どものために強制的にロシアに連れ去られています。ロシア軍は軍事施設だけでなく、民間の施設や住宅をも昼夜問わずミサイルで攻撃しています。ウクライナの人々は、いつどこでミサイル攻撃があるのか分からない恐怖の中で暮らしているのです。



ロシアの侵略が始まってから現時点までに、127人のジャーナリストが命を落としました。ウクライナ全国ジャーナリスト連盟は、最前線で活動するジャーナリストを支援するネットワークを立ち上げ、防護服や安全な作業スペースを提供しています。

私たちはジャーナリストは、戦争中であっても活動を止めません。なぜなら、今戦争で何が起きているのか、ウクライナの国民、そして全世界の人々に伝える責務があるからです。

私たちはジャーナリストは戦争で何が起きているのかを伝え続けます

セルゲイ・トレンコさん

ロシアの侵略が始まってから現時点までに、127人のジャーナリストが命を落としました。ウクライナ全国ジャーナリスト連盟は、最前線で活動するジャーナリストを支援するネットワークを立ち上げ、防護服や安全な作業スペースを提供しています。



ジャーナリストたちはウクライナでの侵略者の犯罪を記録し、戦争の真実を世界に伝えている。



ロシア軍の攻撃により、ザポリージャ原野付近の建物や通信施設が破壊されている。

ザポリージャ原野への侵略は全世界の脅威となっています

2022年3月4日、ロシア軍がヨーロッパ最大の原子力発電所、ザポリージャ原野を攻撃しました。発電所を掌握したロシア軍は、現在も軍事基地として占拠し続けています。周辺には地雷が至る所に埋められており、施設の中には銃や爆弾などが置かれ、さらには、周辺地域を攻撃したミサイルが敷地内に落ちたなど、とても危険な状態です。

ウクライナジャーナリストからのメッセージ  
戦争を知らない子どもたちに戦争をどう伝えるのか

戦争を知るには、一般的な戦争の知識より、被災者一人ひとりのストーリーを通して見るのが、恐ろしさや残酷さがより伝わると、長崎原爆資料館を訪れて強く感じました。

短い子どもの時期を幸せに過ごすのはとても大事なことです。しかし、ウクライナの子どもたちは、その大事な時期を戦争によって地下で過ごす必要があります。戦争を知らない日本の子どもたちに、戦争の巻き添えになっているウクライナの子どもたちのストーリーを伝えてほしいと思います。

私は、長崎原爆資料館で見た「ノーマー・ヒロサキ、ノーマー・ナガサキ、ノーマー・ヒバクシャ」の言葉に、「ノーマー・ザポリージャ」を加えてほしいと思います。同じ悲劇は二度と起きてほしくありません。

※上の3点の写真はウクライナ・ジャーナリスト連盟の当日資料より。

侵略前に約1万1000人いた従業員は、現在は約3000人しか残っていません。ロシアの支配下で働くことを拒否した人々の中には、拷問され殺害された人もいます。

多くの専門家を失った発電所では設備のメンテナンスも行われず、ヨーロッパで一番安全な原発と言われているザポリージャ原野は、今や一番危険な原発になっているのです。

オルガ・ヴァカーロさん

95年の歴史を持つ私たちの新聞は、過去に二度休刊したことがありました。一度目は第二次世界大戦、二度目はロシアの侵襲開始によってです。私たちの街への攻撃が始まった時は、とても恐怖を感じました。しかし、私たちは希望を捨てず、隣町に避難して活動を続ける決断をしました。なぜなら、ウクライナでは電気やインターネットが通じず、自国の情報さえ得られにくい市民が多くいます。私たちの新聞は、人々をつなぐ大切なコミュニケーションの場です。

グリーンコブの支援で新聞の発行が再開できました

スヴィトラナ・カルペンコさん

95年の歴史を持つ私たちの新聞は、過去に二度休刊したことがありました。一度目は第二次世界大戦、二度目はロシアの侵襲開始によってです。私たちの街への攻撃が始まった時は、とても恐怖を感じました。しかし、私たちは希望を捨てず、隣町に避難して活動を続ける決断をしました。なぜなら、ウクライナでは電気やインターネットが通じず、自国の情報さえ得られにくい市民が多くいます。私たちの新聞は、人々をつなぐ大切なコミュニケーションの場です。

2022年4月 ウクライナへの軍事侵襲に断固反対する声明を発表。

2022年5月 ウクライナ・緊急支援募金 総額19,628,271円が集まり、ウクライナのジャーナリストをはじめ、ウクライナの支援に取り組む団体へ届ける。

2022年7月 ウクライナのジャーナリスト団体より感謝状と勲章が届けられる。

2025年8月 ウクライナ・ジャーナリスト連盟より感謝状と勲章が届けられる。

グリーンコブの支援によって、ウクライナが奪還した地域及び前線地域で、25の地方紙が復刊したことへの感謝が伝えられました。

2022年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵襲が始まり、3年半以上が経ちました。停戦の議論はなされるものの戦争は続き、今も多くの人々の尊厳や生命や自由が奪われています。グリーンコブは、侵襲開始直後に、軍事侵襲に反対する声明を発表し、「ウクライナ・緊急支援募金」に取り組みしました。

今回、ウクライナのジャーナリストの訪日に合わせ、グリーンコブの長崎、ふくおか、かこしま、くまもとの4つの会員生協でウクライナの現状を伝える講演会を開催しました。各会場とも多くの参加があり、数々のメディアで取り上げられました。

8月29日にグリーンコブ生協(長崎)が開催した平和学習会では、原爆被災者も講師として加わり、それぞれの想いを共有して平和について考えました。

グリーンコブは、「戦争は最大の暴力である」と考え、「不戦」を掲げて様々な平和活動に取り組んでいます。グリーンコブ生協(長崎)は、ウクライナのジャーナリストと日本原爆被災者団体協議会(日本被団協)の田中重光さんを講師に招き、平和学習会を開催しました。

原爆投下から80年が経ち、被爆者の生の声を聞く機会が少なくなっています。自らの辛い体験を語るのとはとても大変なことです。それでも、平和の大切さを伝えるために、田中さんをはじめ日本被団協の方々には語

り続け、昨年、ノーベル平和賞を受賞しました。多くの人が戦争のない世界を願う一方、ウクライナでは戦争によって多くの生命が奪われ続けています。ウクライナのジャーナリストたちは、危険な目に遭いながらも戦争で起こってきたことを世界に発信し続けてきました。

参加者は、80年前の戦争で起こったこと、今の戦争で起きていることを知り、改めて戦争のない平和な世界を実現したいと、想いを一つにしました。

グリーンコブのウクライナ支援

2022年4月 ウクライナへの軍事侵襲に断固反対する声明を発表。

2022年5月 ウクライナ・緊急支援募金 総額19,628,271円が集まり、ウクライナのジャーナリストをはじめ、ウクライナの支援に取り組む団体へ届ける。

2022年7月 ウクライナのジャーナリスト団体より感謝状と勲章が届けられる。

2025年8月 ウクライナ・ジャーナリスト連盟より感謝状と勲章が届けられる。

グリーンコブの支援によって、ウクライナが奪還した地域及び前線地域で、25の地方紙が復刊したことへの感謝が伝えられました。